

北永田地区

第2期計画の振り返り（平成22～27年度）

☆かわす挨拶で「明るい街」に ☆困ったときは「お互いさま」の精神で ☆歳をとっても「いきいき暮らせる地域」に

地域の交流の活性化のために・・・

【成果】

- ・地区社協広報紙「ふれあいながた通信」を再発行し、全戸配布を実現しました。
- ・地域の学校と連携し、永田小学校のウォークラリー等、地域住民と子どもたちが交流できる事業に協力しました。
- ・「ふれあい昼食会」は平成25年度に30周年を迎えて、記念感謝会を実施しました。
- ・配食サービス「ますかつと」は継続し、増加する高齢者世帯の生活を支えました。



ふれあい昼食会

【今後に向けて】

- ・地区社協広報紙の編集委員を増やし、より充実した紙面づくりを目指します。
- ・学校と地域が連携し、地域で子どもたちを育てられる街づくりを進めます。
- ・配食サービスや高齢者食事会等の担い手を増やします。
- ・地域行事の情報を積極的に発信し、特に男性や若い世代の参加を促します。

誰もが気軽に楽しく集える場として・・・

【成果】

- ・子育てサロン「ぽてと」を2ヶ所開設し、多くの親子が毎月集える場所をつくりました。
- ・子育てサロンにて子ども衣類の再利用を実施し、着られなくなった衣類を有効活用できるようにしました。
- ・「ふれあいサロンながた」に代わる場所をみんなで検討しました。



ぽてと

【今後に向けて】

- ・エリアが広いため、3ヶ所目の子育てサロン開設に向けて検討します。
- ・世代を問わず、住民が交流できる場所をつくります。
- ・集いの場を支えられる担い手を増やします。

災害時の高齢者や障害者など援助が必要な人への支援ができるように・・・

【成果】

- ・要援護者名簿を町内会や区役所と協働して作成しました。
- ・地域作業所「めざみ」と防災訓練やもちつき大会を通して交流の機会を毎年もち、顔が見える関係を築きました。
- ・南区子育てもっとネット地区版（永田エリア）にて、災害時の避難場所等がわかるマップを作成しました。



もちつき大会

【今後に向けて】

- ・災害時に支援が必要な人と日頃から関係をつくり、把握しておくことで、いざという時に、お互いに助けあえるようにします。
- ・住民向けに、災害時に必要な情報を日頃から届けます。

地域内の福祉保健活動団体間の情報共有化を促進するために・・・

【成果】

- ・永田地域ケアプラザと連携し、ケアマネジャーや民生委員・児童委員等、団体間の情報交換を実施したり、住民に必要な福祉情報を届けたりしました。
- ・民生委員・児童委員等を対象に認知症サポーター養成講座を実施し、認知症の人を地域で見守る必要性について考える機会をもちました。



認知症サポーター養成講座

【今後に向けて】

- ・永田地域ケアプラザとの連携を深め、地域と専門職との間の情報共有を進めます。
- ・地域の状況や課題等について関係団体が日頃から情報交換し、解決策を検討できる機会を増やします。

健康について正しい知識を身につけ、健康に過ごすために・・・

【成果】

- ・体操教室「グリーン会」の実施を継続し、「介護のいらぬ体づくり」を目標に取り組む高齢者を増やしました。
- ・永田地域ケアプラザの事業から自主化した玄米ダンベル体操教室「おもて会」を地区社協主催で実施し、健康づくりの取組を進めました。

【今後に向けて】

- ・健康づくりの意義を広く伝えて、多くの住民が健康に関する知識を身につけて、取り組める機会を増やします。

第3期計画（平成28～32年度）

地域の特徴

（データ=平成26年9月末日現在）

井土ヶ谷駅北部、環状一号と遊園地道路を主軸にし、複雑な地形のままに形成された戸建てを主体にした市街地です。

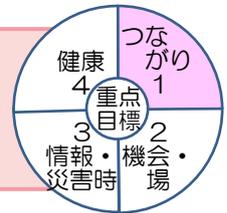
地区人口=約20,000人
 年少人口比率=13.7%
 高齢人口比率=22.4%
 総世帯数=約9,000世帯
 平均世帯規模=約2.2人



☆かわす挨拶で「明るい街」に ☆いきいき暮らせる街づくり ☆身近な子育て支援を充実させよう

住民同士の交流を進めるために・・・

5年後の将来像：住民同士、日頃からお互いに顔の見える関係ができ
 ており、世代を問わず自然な交流ができています。

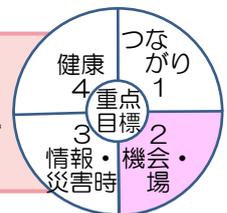


具体的な取組等

- ・住民に、地域の関係団体を知ってもらえるように、地区社協広報紙に地区社協をはじめとした様々な地域の取組や地域ケアプラザ等の情報を多く掲載します。
- ・日頃から学校と地域が連携し、ウォークラリー等、子どもたちと地域住民が交流できる事業を実施します。
- ・事業のチラシを町内会で回覧・掲示したり、地区社協広報紙で周知したりして、参加者だけでなく、担い手も集められるように、情報発信していきます。
- ・男性や若い世代がもっと参加できる事業を企画し、実施します。

誰もが気軽に集える場をつくるために・・・

5年後の将来像：地域の身近な所に、誰もが気軽に足を運べて、集える場所が存在している。

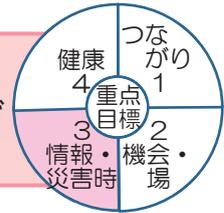


具体的な取組等

- ・子育てサロン「ぽてと」に高齢者等も一緒に参加し、住民同士、自然と世代間交流できる場所にします。
- ・3ヶ所目の子育てサロンを開設できる場所を探し、開設に向けて検討します。
- ・子育てサロンの運営に関われる担い手を多く見つけて、サロンの運営が継続できるように、人材を育てます。
- ・「ふれあいサロンながた」に代わる場所を見つけるために、情報収集と検討の場を引き続きもちます。

災害時に支援が必要な人を助けられるように・・・

5年後の将来像：地域で普段から顔の見える関係ができており、いざという時に、お互いに助けあえる。

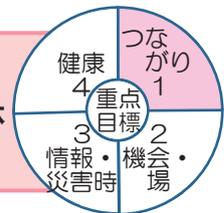


具体的な取組等

- ・要援護者名簿等を活用し、災害時に支援が必要な人を把握します。また、名簿は毎年見直します。
- ・乳幼児、高齢者、障害児者等、災害時に支援が必要な人と住民が交流できる事業を実施し、日頃から顔の見える関係づくりを進めます。
- ・災害時の具体的な支援方法を検討します。
- ・地区社協広報紙を活用し、災害時に必要な情報を地域に発信していきます。
- ・災害時避難場所等を掲載したマップを人が集まる場所で配布します。

地域の活動団体がつながりを強化するために・・・

5年後の将来像：地域の福祉保健課題を解決するために活動する団体が、団体種別を超えて取組を進めている。

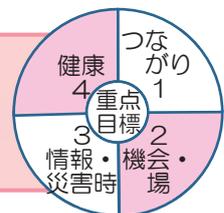


具体的な取組等

- ・永田地域ケアプラザと連携し、団体間の情報交換できる場を積極的にもちます。
- ・地区社協広報紙等を活用して、地域の活動団体をPRし、各団体の活動内容を誰にでもわかりやすく伝えます。
- ・民生委員・児童委員、友愛活動員、保健活動推進員が協働することで、支援が必要な人を速やかに把握し、適切な支援ができるような仕組みをつくります。
- ・認知症サポーター養成講座を小地域で展開し、認知症への理解を深めると共に、地域の見守り体制づくりを強化します。

住民の健康意識を高めるために・・・

5年後の将来像：地域全体で健康意識が高まり、日頃から健康づくりに取り組む住民が増えている。



具体的な取組等

- ・健康づくりに関する勉強会や相談会を小地域で実施します。
- ・スポーツやウォーキング等、健康づくりの活動ができる場所を増やします。
- ・健康に関する情報を積極的に発信します。
- ・サロンや食事会をはじめとする福祉保健の活動等に関わる担い手も、自身の健康づくりに取り組みます。
- ・サロンや食事会など様々な場面で、気軽にできる健康づくり活動について取り組む機会を増やします。